

「70年目の実態調査とレポート添削好事例」（全通研長崎大会 第1分科会 本部発表）

一 時代を超える通信制教育課題及び「深い学び」につながるレポートを共有する 一

神奈川県立横浜修悠館高等学校	校長	原 口 瑞
神奈川県立横浜修悠館高等学校	副校長	逸 見 育 磨
目黒日本大学高等学校	部長	原 田 啓 嗣
群馬県立前橋清陵高等学校	教頭	天 田 徹 也
埼玉県立大宮中央高等学校	教頭	上 田 毅 一
茨城県立水戸南高等学校	教頭	荒 井 豊 水
栃木県立宇都宮高等学校	教頭	高 山 緑

1 はじめに

勤労青少年の教育機関としての役割を担い、高等学校通信制教育が発足してから70余年の歳月が流れた。時代が変化する中で、通信制の役割や通信制教育で学ぶ生徒の姿も大きく変化してきた。全通研ではそれぞれの時代の通信教育の実態や課題を把握するために、昭和43年に第1回実態調査を行ってから、その後10年ごとに調査している。

近年は学校教育を取り巻く環境も大きく変化してきている。小中学生の不登校児童生徒の増加や外国籍生徒の増加、年々増加する転編入学生の受入れや基礎学力の育成から学力の向上など、学校現場では多くの課題に取り組まなければならない。こうした中、ICT機器の急速な普及をはじめとする技術革新とそれに伴う多様なメディアを活用した新たな教育のあり方と教育環境・設備の変化に着目し、第71回全通研長崎大会における研究発表のため実態を調査しまとめた。

また、併せて、次期学習指導要領の導入を見据えて、会員校で日々実践している「深い学び」につながるレポート添削例から、通信制ならではの「深い学び」に対する取組状況や課題などを、会員校間で情報共有していきたいと考えた。

学校の設備や教育環境は急速に変化しているが、多様な生徒が学ぶ通信制高校において、課題を抱える生徒を支援していくという教員の熱い思いはいつの時代も変わらないのだと実感している。通信制高校への生徒や保護者、社会の多様なニーズはますます高まっており、より質の高い教育が求められている。本アンケートの結果が各校の教育活動の一助になることを願っている。

2 アンケート調査について

(1) 調査項目の作成

平成30年12月末にアンケートを作成した。主な調査項目は従来の実態調査に加え、各校のICT機器の活用状況、外国籍生徒等への支援をはじめ、通信制高校を取り巻くさまざまな実態についての質問項目を加えた。また、主体的・対話的で深い学びの「深い学び」に焦点を合わせ、各校におけるレポート添削例について、それぞれ個性豊かで魅力あふれる添削例を提供していただいた。

(2) 調査を実施した時期と方法

平成30年12月に全通研に加盟する118校に、各地区通研を通じて電子メールにてファイルを送信し、75校から回答を得た。

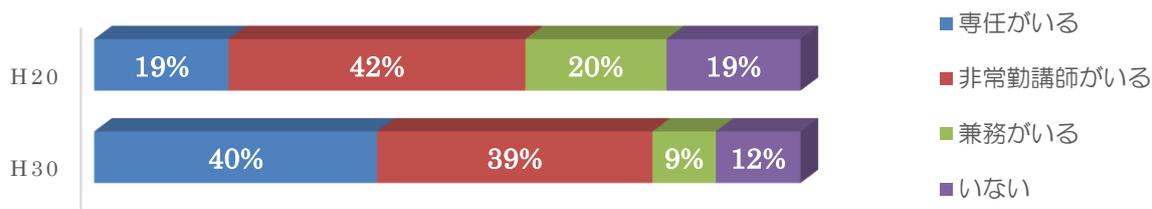
3 会員校におけるアンケート回答から

現在、通信制高校に約 18 万人の生徒が通学しており、その数は年々増加の傾向にある。その中でも、法人立通信制に通学する生徒が増加傾向にあるが、公立、法人立ともに質の高い通信制高校教育を創意工夫をもって進めることが大切であると考え。

一方で一部の広域通信制高校では、安易な単位認定や就学支援金の不正受給等について問題となった。今後増加する生徒たちに不利益を与えてはならないという強い気持ちを持って教育活動に臨まなければいけない。

今回のアンケートは 10 年ごとの定点調査の意味もあるが、アンケート回答数や質問内容も 10 年前とは大きく異なるために、通信制高校の現状報告を中心とした。

Q1 養護教諭の配置について

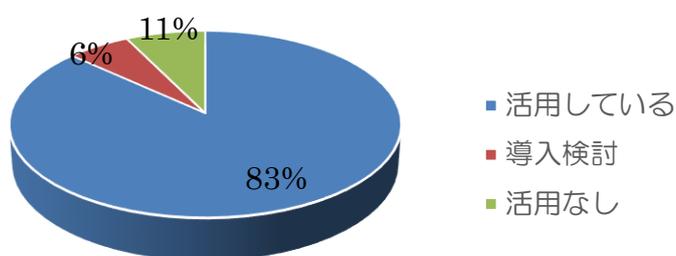


Q2 非常勤、兼務の養護教諭を配置している学校での勤務日（複数回答可）

	校数
スクーリングのある日に勤務	35 校
行事のある日	22 校
その他	13 校

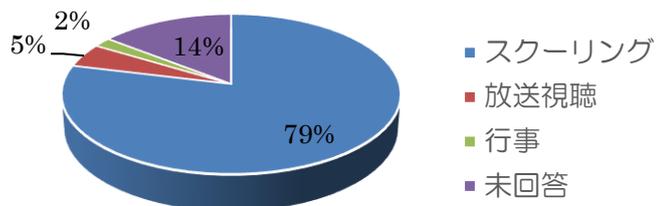
通信制高校に通学している生徒は、様々な課題を抱えているケースも多い。そこで全通研賀澤恵二会長が「これからの通信制高校の充実発展のために」と題した 3 つの提言のひとつとして「スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーに、養護教諭を含めた三職の配置」（31 全通研 第 4 号 平成 31 年 4 月 8 日付）を提言している。

Q3 スクーリングにおいて ICT 機器を活用



ICT 機器の活用は 80%を超えている。10 年前は、質問事項がないことからほとんど使用されていなかったと考えられる。

Q4 ICTの具体的活用場面



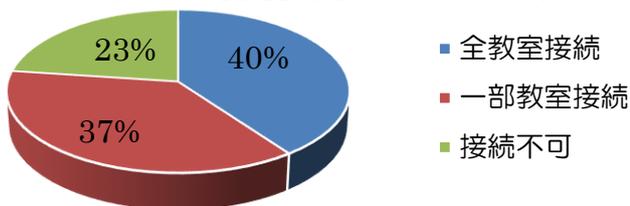
主にスクーリング・放送視聴での使用ではあるが今後はさらに自宅で「IT講座」のような面接指導や添削課題などを行う学校が増加すると思われる。

体調不良や対人関係が苦手な生徒には効果的である。また、スポーツ活動等で海外での滞在期間が長い生徒にも有効である。

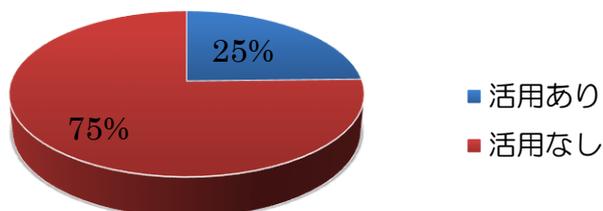
Q5 所有しているICT機器等の台数

	平均台数/校
プロジェクター	7.6台
スクリーン	7.8台
タブレット端末	8.3台
WiFi使用可能教室	3.5台
その他	1.4台

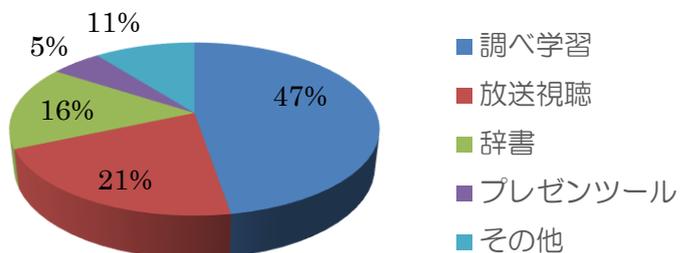
Q6 スクーリングに使用する教室のインターネットへの接続状況



Q7 スクーリングで生徒が所有するスマートフォンや電子機器の活用

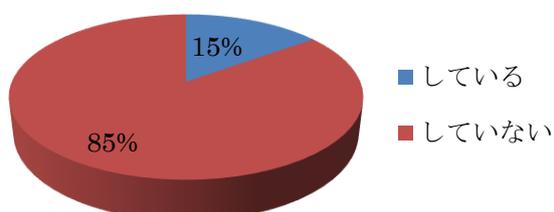


Q8 上記で活用している学校のうち、どのような場面で活用しているか。



現在はこのような場面で使用されているが、今後は、「総合的な探究の時間」やポートフォリオ等で使用する場面が増加すると考えられる。

Q9 生徒に放送視聴を対象にしたパソコンの貸出しをしているか。



Q10 地域との連携事業実施の有無と実施校の主な内容

	校数	割合		校数
実施	36	52%	学校行事	19
未実施	31	44%	体育施設開放	13
無回答	3	4%	公開講座	7
			地域祭り等	22
			教員教育活動	4
			地域人材活用	9
			その他	5

Q11 公開講座を開講している学校の具体例

- ◇向田邦子の世界・仮名の美を探る（長崎県立佐世保中央高校）
 - ・校舎移転の際に、地域住民の理解を得ることを目的にスタート。通信制として2講座開講している。
- ◇ロボット工学の世界、PC スキルアップ、山形の自然と防災、芸術に親しむ等（山形県立霞城学園高校）
 - ・PC スキルアップ以外は、一般の方のみが受講している。
- ◇古代史講座（日本ウェルネス高校・千葉県立大宮高校）
 - ・生徒の総合学習からスタート。地元の方々も参加したいという声上がり現在まで5～6年続いている。
- ◇数学一般、理科一般、生活の基礎知識、大人の英語塾、心理学、パソコン（埼玉県立大宮中央高校）
 - ・基本的にはシニアの方々に参加している。本校を理解してもらう機会となっている。
- ◇世界遺産（京都府立朱雀高校）
- ◇陶芸教室（都立砂川高校・横浜修悠館高校）

Q12 公開講座の効果や利点を教えてください

- ◇「生徒と地域の人々との交流が、生徒の成長の一助となっている（長野県立筑摩高校）」（3校）
- ◇「地域の方々对学校に対する理解を深める機会となっている（長崎県立佐世保中央高校）」（2校）
- ◇「府民のニーズにこたえている（大阪府立桃谷高校）」（2校）

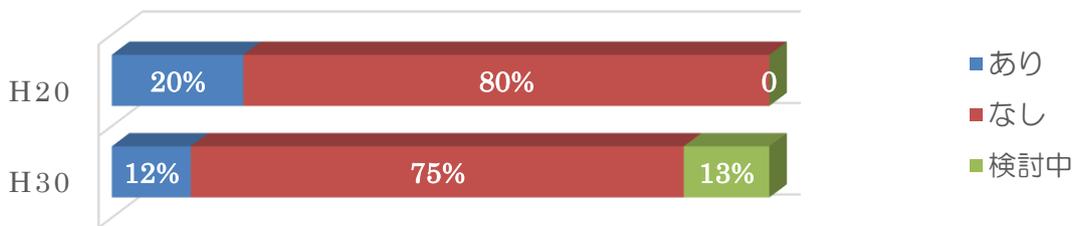
アンケートの結果、公開講座の交流により参加した地域の方々だけでなく、生徒へ良い刺激となっている。また、「地域住民が学校理解を更に深める」、「地域の要望に応える」など、公開講座を実施している学校は地域の関係性を高める効果をあげている。

Q13 日本語を母国語とせず日本語指導が必要な生徒を支援するための外部機関等との連携策

- ◇NHK 高校講座を活用した学習支援
- ◇宇都宮大学の学生ボランティアによる学習支援
- ◇系列の全日制に国際化がある
- ◇多文化共生教育コーディネーター、通訳支援事業、学習支援員派遣
- ◇山梨県立大学公開支援講座

今後、ますます外国籍の生徒も増え母国語も複数化することも考えると、通信制高校で受け入れる生徒数の増加が予想される。上記の例にあるように設置都道府県の外国籍生徒支援事業の活用、外部 NPO の教育資源人材の活用、大学と連携して学生ボランティアや外国籍の卒業生を活用するなど対応の幅を広げるべきである。

Q14 学校に託児室があるか（H20の調査では、「あり」「なし」のみで「検討中」の項目なし）



託児室を設けている（順不同）

長野県立長野西高校、埼玉県立大宮中央高校、横浜修悠館高校、都立砂川高校、秋田明德館高校
千葉県立千葉大宮高校、茨城県立水戸南高校、長野県立筑摩高校、群馬県立前橋清陵高校 等

託児室を導入している学校の割合は非常に少ないが、今後必要となる学校が増えることも考えられる。幼児・児童の安全を考慮した施設、ボランティアの活用など体制を整える必要があるのではないかと。

Q15 託児室等がある学校における、保育士の資格と給与について

	給与あり	給与なし	合計
保育士資格あり	8校	0校	8校
保育士資格なし	4校	1校	5校
合計	12校	1校	13校

Q16 託児室の開室日について

	校数
土曜・日曜のみ	10
平日のみ	0
スクーリング期間	1
不定期	2

実施校の例

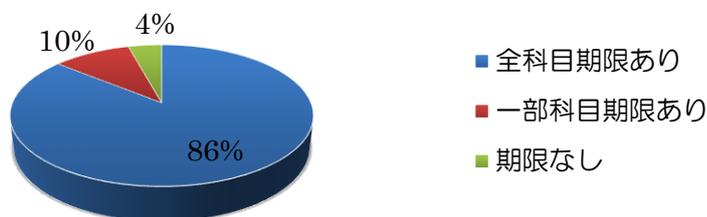
◇長野県立筑摩高校

- ・H31 登録者 13名(利用者 2～3名) 日曜日のスクーリングのみ
- ・登録人数によって1～3人の保育士を採用している。

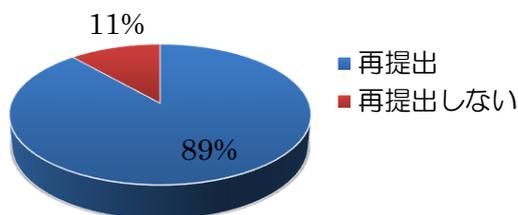
◇群馬県立前橋清陵高校

- ・H31 登録者 4名 日曜日のスクーリングのみ 保育士 2名

Q17 レポート提出期限

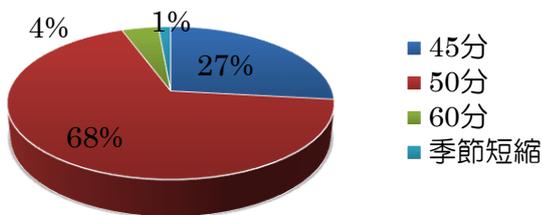


Q18 レポートの成果が充分でないときの対応



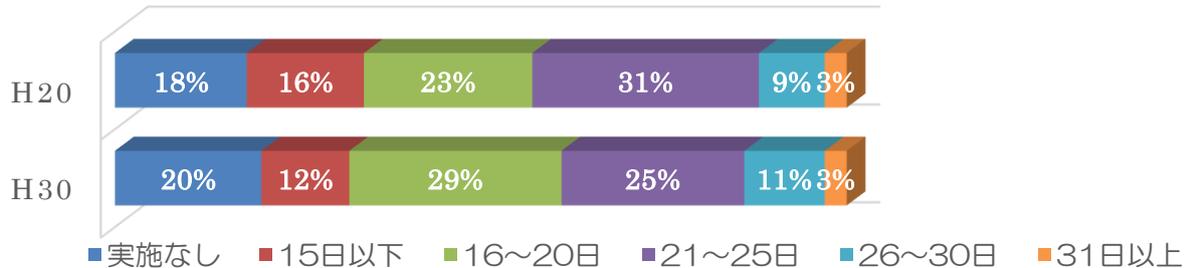
レポート課題は、通信制の学習で最も重要視されているひとつである。レポート課題では、生徒に高校卒業の知識を身につけさせること、生徒に気づきを与えそれをより深い学びに結び付けさせることが重要である。約9割の学校が、課題が不十分なレポートに対して再提出を求め、生徒の理解向上を行っている。

Q19 スクーリングの1校時あたりの時間数



1 時間あたり 50 分という時間を多くの学校で順守している。学校の状況に応じて時間を短縮してスクーリング回数で補っている学校もある。

Q20 日曜スクーリングの年間実施回数



Q21 補習の実施



通信制高校がセーフティネットの一面を持っていることを考えると、学習に悩んでいる生徒をフォローしていくことは大変重要である。グラフにもあるように多くの学校が、なんらかの形で補習体制をとっている。今後は、学生ボランティアや現役を引退した教員を活用して、さらなる充実した補習体制が必要である。

Q22 補習対象となる生徒

	校数
スクーリング数不足生徒	26
基礎学力の補充が必要な生徒	32
進学指導対策	30
就職指導対策	24
個別支援の必要な生徒	23

「基礎学力の補充が必要な生徒」「個別支援の必要な生徒」の割合は高いと考えられる。

Q23 基礎学力の補充の必要な生徒に対して行っている具体的な学習支援

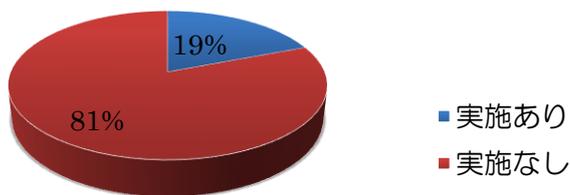
	校数
個別指導	31
特別講座	12
放送視聴	3
補習	4
その他	9

その他

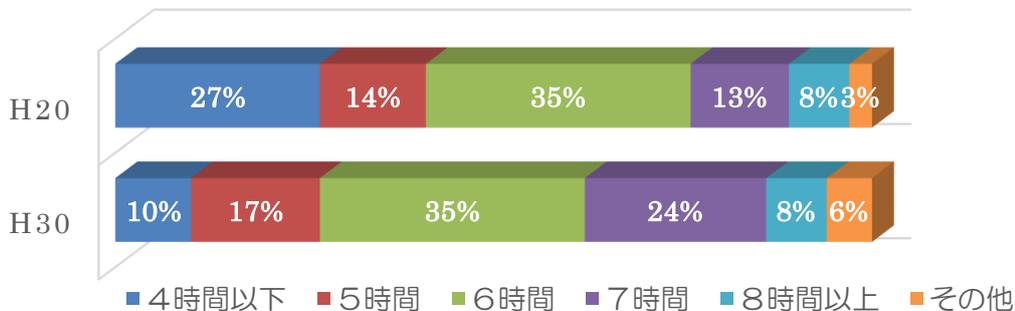
◇個別指導では「クラス担任・教科担任」「輪番」「英数国」など担当を決めて実施。

◇支援内容は「基礎に戻っての指導」「レポート作成に関する質問と解説」「学び直し講座を実施」など。

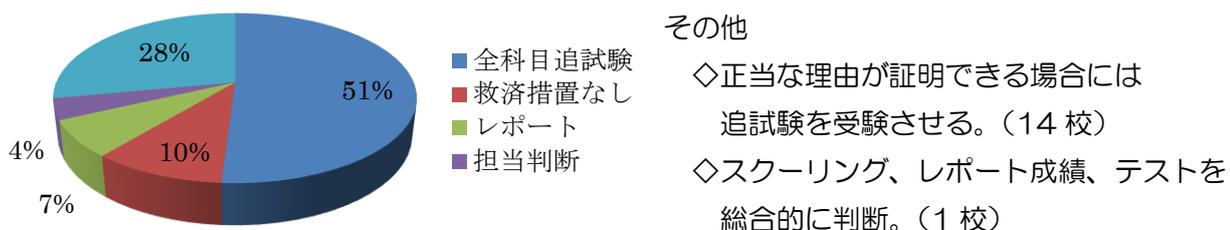
Q24 長期休暇（夏期・冬期）に集中スクーリングの実施



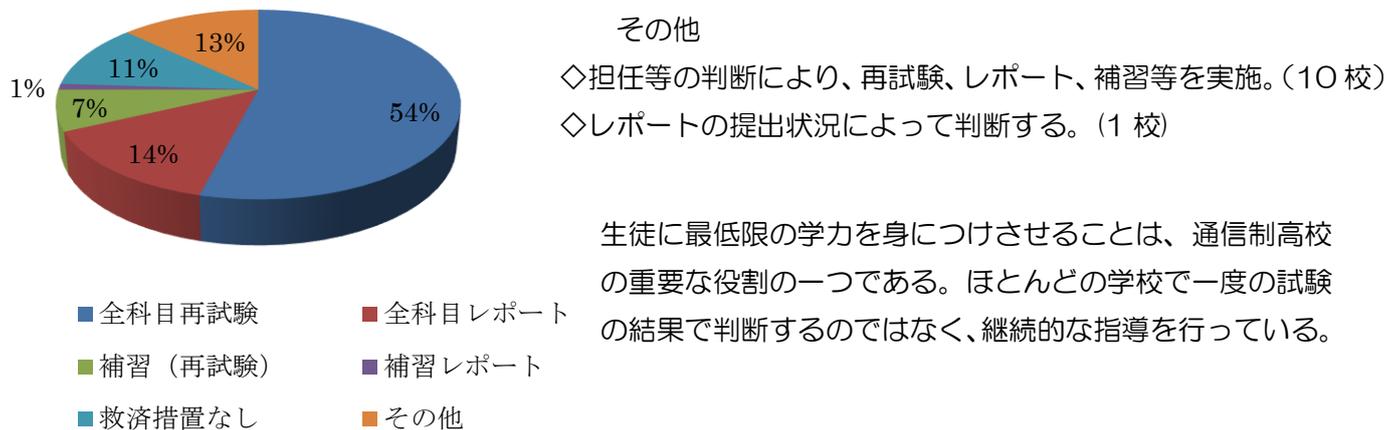
Q25 定期試験日の一日の最大時間



Q26 定期試験欠席者の扱い



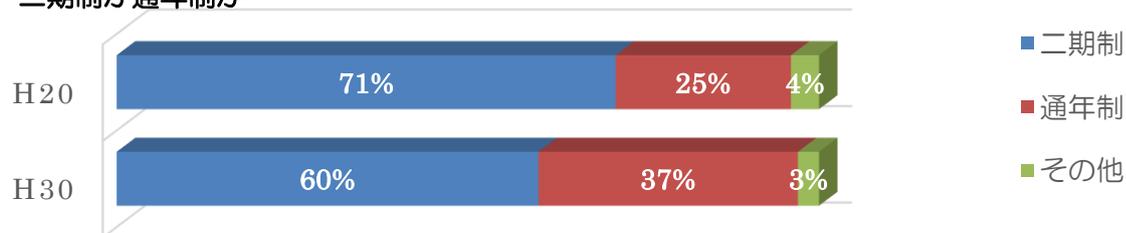
Q27 定期試験の成績不振者の扱い



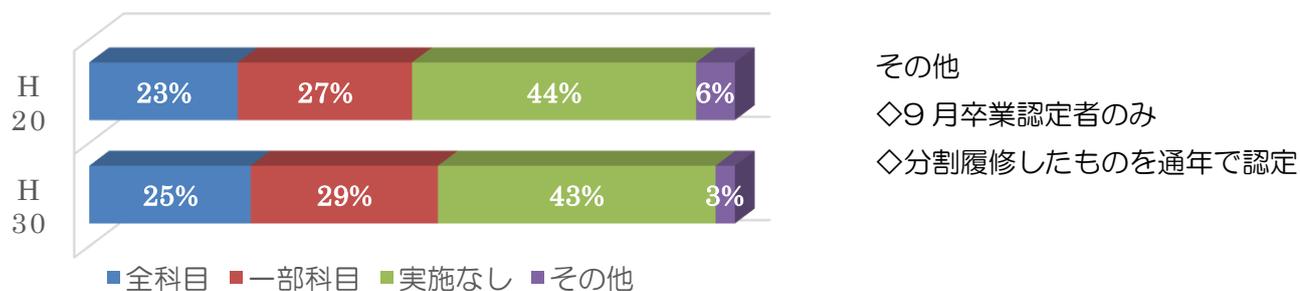
Q28 1年間に受講（履修）できる単位数の上限

	平均値
1年次	22 単位
2年次	28 単位
3年次	28 単位
4年次	21 単位

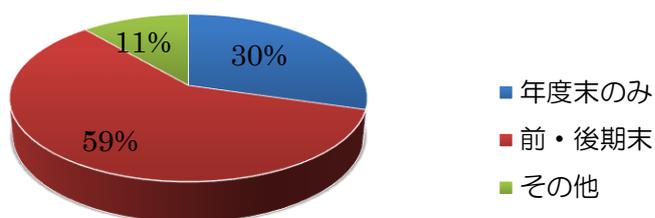
Q29 二期制か通年制か



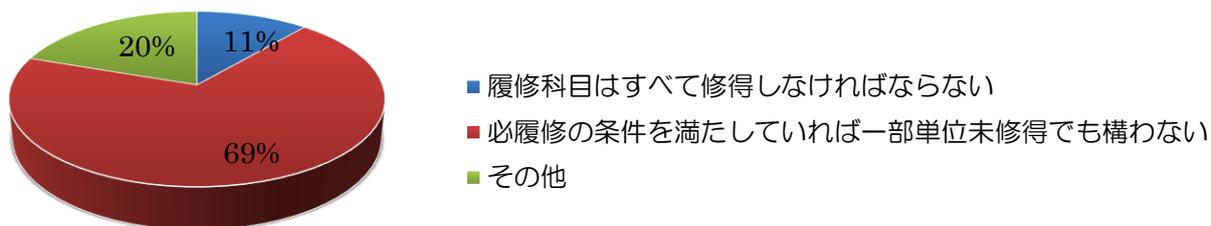
Q30 前・後期の分割履修や単位の半期認定の実施校割合



Q31 卒業時期



Q32 卒業に関わる履修と単位修得の条件



Q33 年度途中で他県の通信制高校から転入生を受け入れた場合、指導を引継いでいるか。(複数回答)

	校数
「添削指導」を引継いでいる	11校
「面接指導」を引継いでいる	12校
「試験」を引継いでいる	12校
条件による	36校

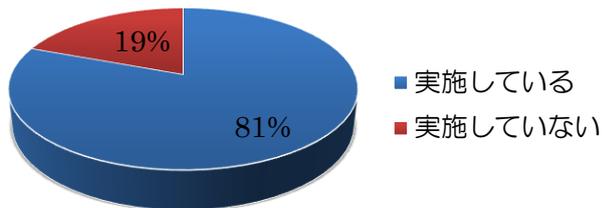
Q34 学校が生徒と直接連絡を取る際に活用している連絡方法（複数回答）

	校数
固定・携帯電話	69
メール	33
SNS	9
通信物	39
その他	13

その他

- ◇外部業者（メールメイトなど）に委託した一斉メール
- ◇固定電話・携帯電話と通信物で連絡

Q35 平成 30 年度の校内研修実施状況



10 年前も校内研修は実施していたと考えられるが、質問項目としてはなかった。

近年は生徒の課題の多様化に対応するため、通信制高校ではスクーリングとレポート添削、生徒面談の合間をぬってさまざまな研修が行われている。

Q36 実施した校内研修のテーマ（複数回答）

	割合
特別支援	54%
教育相談	51%
スクーリング	35%
添削指導	34%
生徒指導	32%
キャリア教育	32%
レポート作成	24%
進路指導	21%
法令	18%
試験問題関係	14%
放送教育	14%
シラバス	13%
その他	32%

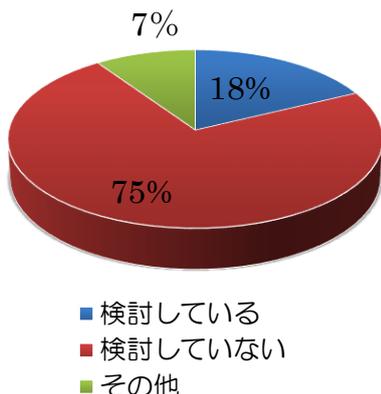
「特別支援」「教育相談」が5割を超えているのは在籍生徒が重層的な課題(発達障がい、不登校、家庭の教育力不足など)を抱えているためと推測される。

単位修得率、卒業率の向上と卒業後の社会参加に対する課題があるため「スクーリング」・「添削指導」・「生徒指導」「キャリア教育」もそれぞれ3割を超えている。

今後は全日制からの転任教員のための通信制スタートアップ研修なども必要である。

※複数回答のため合計は 100%ではありません。

Q37 大規模震災（自然災害）の発生を想定して、面接指導の代替措置を検討しているか



「検討している」と回答した学校の具体的な内容

- ◇不測事態に対応するため代替日を設けている。(10校)
- ◇面接指導の代替措置を含めて検討している。(2校)

4 会員校レポート添削事例

平成 30 年度レポート添削例の集約

No	学校名	No	学校名
1	青森県立北斗高校	10	神奈川県立横浜修悠館高校
2	青森県立尾上総合高校	11	岐阜県立華陽フロンティア高校
3	秋田県立秋田明德館高校	12	奈良女子高校
4	栃木県立宇都宮高等学校	13	京都府立舞鶴高校
5	群馬県立前橋清陵高校	14	島根県立浜田高校
6	群馬県立太田フレックス高校	15	広島県立西高校
7	埼玉県立大宮中央高校	16	広島県立東高校
8	東京都立一橋高校	17	熊本県立湧心館高校
9	NHK学園高校	18	鹿児島県立開陽高校

教科	件数	教科	件数
国語	14	書道	3
地歴・公民	11	家庭	9
数学	33	英語	23
理科	16	情報	4
保体	7	商業	1
美術	8	合計	129

上記の 18 校よりレポート添削 129 事例が集まった。

通信制の学びの中核であるレポート添削は生徒一人ひとりの課題を発見しやすく、教育的アセスメントが可能である。教える側が目標となる学修成果を明確にし、習熟度が見える問いを用意することによって、生徒がどの範囲をどの水準まで獲得したかを把握することができる。

本来、レポート課題は作成時の工夫（年間計画による明確な出題意図）と添削時の工夫（評価基準や効果的なコメント）という前後の連動した工夫が必要である。

今回集まった好事例の中から、【組織的にレポート添削事例集作成】2校、【発展的な挑戦問題作成】2校、【課題研究組込み】1校に実施状況を報告いただくとともに、各校で生かせるレポート作成や添削のポイント、留意点をまとめ、「深い学びの実現」へのつながりを研究した。

参考 1

平成 30 年 6 月 第 70 回全通研愛媛大会 第一分科会本部発表 より

提言 3 通信制高校らしい『主体的・対話的で深い学びの実現』に向けたレポート作成、添削指導、スクーリングのために自校でできる工夫を他校の実践から学びとる積極的な姿勢が必要である。

参考 2

平成 29 年 7 月「高等学校通信教育の質の確保・向上方策について」より抜粋

[現状と対応方策]

○添削指導は高等学校通信教育における教育の基幹的部分である。添削指導においては生徒の学習の状況を把握し、生徒の思考方向と躓きを的確にとらえていくことが必要であり、このため、例えばマークシート形式のように機械的に採点ができるような課題や、択一式の問題のみで構成される課題は不適切である。

○添削指導の改善に努めている好事例を収集し、情報発信していくことも必要であるとする。

参考 3

昭和 25 年公立高校通信制課程の全国組織が作られ、レポート添削指導の基本討議がなされた。

ペンシルバニア州立大学ウィリアム・ヤング氏によるレポート添削の心構え「迅速 丁寧 正確」

(1) 組織的にレポート添削事例集作成 2校

熊本県立湧心館高等学校

- ◇平成 30 年度はじめて 9 教科 41 科目の添削事例を美術レポート生徒作品を表紙としてまとめた。
- ◇レポート課題作成について知識、理解に偏りがちであったものを思考力・判断力・表現力を育成するものに漸次改訂を進めている。
- ◇添削指導力の向上を目指し、正誤のみの記載ではなく、必要な解説や発展学習につながる効果的なコメントをつけることを心がけた。
- ◇他教科の指導法を「事例集」から学び、互いに研鑽することを目的とする。

広島県立東高等学校

- ◇11 科目の添削事例あり 各科目担当者がそれぞれ【出題意図】【添削のポイント】【添削指導の留意点】を別紙にまとめており、添削回数によるペンの色も各教科で決まっている。
- ◇評価基準(ルーブリック)の作成、レポート添付、提出により生徒の振り返りに大きな効果がある。
- **数学**《指数関数と貯金借金》
 - 【出題意図】 自身の生活と結びつけて感想や考えを文章にする。
 - 【添削のポイント】 ①感想や考えを記述する問題は基本的には×にしない。
②生活と結びつけた回答には肯定的コメントをする。
③定着度合に応じて「～を調べてみては？」と学習が広がるコメントをする。
- **家庭総合**《経済生活を作る》
 - 【添削指導の留意点】 今年是自己評価ルーブリックを添付し、第 4 回レポートが終わった後、全員に振り返りをさせた。この生徒は自分の考えを評価基準にそってまとめることができたため、自己評価はすべて 2 だが、教員評価は 3 であると添削した。評価基準(ルーブリック)を示すことで自学自習の習得、レポートでの伝え方、態度を生徒自身が自己評価できるようになった。
- **書道 I**
 - 【添削指導の留意点】 公開研究授業での実践例として ICE モデルを活用したルーブリックを作成し、生徒に自己評価させた。完成作品の具体的指標を提示したルーブリックを示すことで、清書作品、自己評価、授業態度について客観的に見つめなおすことができ、ポイントをしばって学習内容を振り返ることができた。
- **国語総合**《伊勢物語》
 - 【添削における工夫】 ① 1 回目赤/2 回目オレンジ/3 回目緑で添削する。合格印は赤 再提出は青。
② 添削に使った同じ色のマーカーで間違えた問題番号に印をつける。
③ 自分の考えを書く問題には必ず肯定的なコメントを残し、次への意欲につなげる。
④ 「話すこと」を意識した添削指導ができないか模索している。
- **体育**
 - 【レポートの狙い】 現在の生活で、健康・運動を意識した活力ある毎日を送るためのライフスタイルについて考える設問。実技とともに生徒にとって日常生活を見直すきっかけづくりになる。

(2) 発展的な挑戦問題作成 2校

岐阜県立華陽フロンティア高等学校

◇数学の興味を高める手立てとして有名な数学者を取り上げている。

・数学

★期限内に提出&合格した人へのプレゼント問題！

※解けた人は次回のレポートと一緒に提出してください。添削してレポートと一緒にお返しします。

※この報告課題は「おまけ」です。提出しなくても成績には何の影響もありませんのでご安心ください。

栃木県立宇都宮高等学校

◇中堅以上の全日制の授業で扱う内容、通信制では扱う余裕がない。生徒は努力を必要とする。

取組や解答にたどり着いた達成感を味わえるよう丁寧な解法を記したものを添えている。

・数学 A

チャレンジ問題 やるやらないは自由ですが、是非トライしてください。

(3) 課題研究組込み 1校

神奈川県立横浜修悠館高等学校

◇理科科目すべてで「課題研究」を実施している。前年度まで自由提出であったが生徒の提出率・内容ともによく、理科教員が「深い学びの実践」に手応えを感じ、平成30年度より提出必須とした。

◇司書と協働で図書館に理科課題研究コーナーを設けたところ、生徒の図書館利用も増えた。

関連本を並べるだけでなく、テーマ設定や観察、実験の方法等も展示してある。

◇基礎科目では書き方見本を入れ、ウィキペディアや個人のWebページは使用しない、ネットや書籍で調べたことを成果物に記載する際は正当な引用に限り使用することなど出典を記載させている。

◇年度はじめに理科科目で課題研究があることを生徒に伝えておき、最後の提出レポートに「課題研究を組込む」ことで年間の総仕上げとして生徒が課題設定、探究を行い、「深い学びの実践」とする。

◇今後は「課題研究」発表の実施を模索している。

・科学と人間生活 「自然災害についての研究」 ・地学 「大好きな昴」

(4) レポート添削好事例

① レポート課題作成の工夫

◇学習内容を踏まえ自分の考えを書く（多数校で毎回レポート課題に入れている）

・国語総合 ABどちらかの課題を選んで書く100~150字 頭注にヒントあり NHK 学園高等学校

・英語 英文を読み解いて理解し感じたことを日本語でまとめる 島根県立浜田高等学校

・C 英Ⅱ 英文で自分の意見とその理由を2行程度で毎回書かせる 栃木県立宇都宮高等学校

◇郷土を意識する

・英語 プレゼンテーション原稿作成（練習問題：広島路面電車） 広島県立西高等学校

・美術 郷土のポスター 鹿児島伝統行事 傘焼 鹿児島県立開陽高等学校

郷土の文化調べ 薩摩つげ櫛

◇インタビューする（この問題を行うのが困難な人は予め申し出てください 注あり）

- ・子どもの発達と保育 子どもを持つ大人へインタビュー 群馬県立太田フレックス高等学校

◇生徒自身の生活と結びつける

- ・数学 指数関数と貯金借金 広島県立東高等学校
- ・体育 自分のライフスタイルと運動 広島県立東高等学校
- ・環境科学 多方面からの見方を意識させ自分の意見を主張する
ミネラルウォーター購入、災害時の行動 栃木県立宇都宮高等学校

◇自宅で調理実習 写真を添付（スマホを見せる スケッチ可）

- ・家庭基礎 スクーリングでの調理実習参加を選択しない場合 神奈川県立横浜修悠館高等学校

◇レポート原稿の体裁を全教科で統一（すべての生徒にわかりやすく）

- ・「修悠館スタンダード」 レポート作成版 神奈川県立横浜修悠館高等学校
年間計画 評価基準（到達目標） 提出目標 学習内容とスクーリング 回明示 問題文字体ゴシック フォント 11pt
地の文字体明朝 入試に余裕のある科目は生徒が板書を書き写す「メモ欄」を作る など

② レポート添削の工夫

◇新たな発見や気づきを認め、共感し励ましのコメントを残す（ほめる → 勇気づける）

- ・世界史 B 産業革命 国民国家の形成 記述解答に対して 熊本県立湧心館高等学校
- ・倫理 キリスト教 仏教 記述解答に対して 熊本県立湧心館高等学校

◇誤答に対してヒントを示す（丁寧さを超えるヒントの示し方が課題）

- ・古典 B 方丈記「ゆく川の流れ」 熊本県立湧心館高等学校
- ・国語総合 随想「りんごのほっぺ」 熊本県立湧心館高等学校
- ・国語総合 漢文に親しむ 岐阜県立華陽フロンティア高等学校
- ・社会と情報 広島県立東高等学校
- ・数学 I 一次方程式 不等式 NHK 学園高等学校
- ・数学 A 三角形の性質 円の性質 岩手県立杜陵高等学校

◇新たな視点やさらなる問題提起をする

- ・C 英 I よくできている生徒に対して、英語での質問や答えを付け加え上位層を伸ばす 青森県立北斗高等学校
- ・家庭基礎 「今の自分」生徒の現状の自己認識の甘さをうまく指摘 神奈川県立横浜修悠館高等学校

5 提言

(1) 通信制実態調査、現状報告から

提言 1

時代の変化による新たな課題を校内、地区通研、全通研で共有し、先進的取組校に学んで課題解決に努め、自校の教育活動のさらなる質の向上を図る。

(2) 会員校レポート添削事例から

今回、他校の「レポート添削事例集」や「ループリック（評価基準）作成による生徒の振り返り効果」を見ただけでもわれわれ教員の視野が広がり、「深い学びの実現」にはレポート作成時の教員の意識の変革が必要だと確信した。

一方で、昭和 25 年レポート添削の心構え「迅速 丁寧 正確」もまた事実であり、生徒への迅速なレポート返却は時代を超えて通信制学習活動の継続に不可欠であろう。

通信制の「深い学びの実現」とは生徒が自分の内なる課題を意識し解決して「自立と社会参加」に向かうことにつながると考える。

そのために各校がそれぞれできるレポート課題に関する取組を実践することを提言する。

提言 2

- ・各校で「レポート添削事例集作成」などできる工夫をする。
- ・教員のレポート課題作成力及び添削指導力の向上を図る。
- ・レポート課題作成、添削を通して通信制の「深い学びの実現」である、生徒が自分の内なる課題を意識して解決に向かう「自立と社会参加」につなげる。

6 おわりに

令和元年度長崎大会第一分科会本部発表にあたり、調査回答をいただいた学校に深く感謝申し上げます。

令和 4 年入学生より年次進行で新学習指導要領が実施されるため、現在は先行実施移行措置として各学校とも総則・特別活動（今年度以降在籍全生徒に実施）、総合的な探究の時間（今年度入学生から実施）などに取り組んでいるところである。教育課程の役割が、「知識技能の習得」「思考力判断力表現力の育成」「学びに向かう力、人間性の涵養」の実現と総則で示され、一方で「特別な配慮を必要とする生徒への指導」が不可欠な通信制高校においては課題が山積している。しかし通信制教育課題を全国組織で共有し、解決に向けて知恵を出し合い挑戦する気持ちを高め、自校に持ち帰り実践することがこの大会の目的である。

長崎大会の第一分科会での研究協議が通信制高校で学びを求めるすべての生徒とそれを支える教職員の一助になれば幸いである。